African Studies Center
Tokyo University of Foreign Studies

東京外国語大学
現代アフリカ地域研究センター

平成 30 年度　活動報告

1　概要

2　活動実績

2.1　研究活動

2.2　教育活動

a)　センター教員によるリレー講義（学部）

b)　招へい研究者による授業

c) 日本貿易振興機構アジア経済研究所の研修事業「イデアス」の単位化

d) 学生支援

ア) 調査支援

イ) 国際シンポジウム参加支援

2.3　シンポジウム、セミナー

a)　UP-TUFS セミナー

b)　国際会議“Africa-Asia, a New Axis of Knowledge - Second Edition”への参加と協力

c)　ASC セミナー

d)　その他、協力イベント

2.4　人的交流

a)　研究者招へい

b)　留学生招致活動

ア) ガーナ

イ) ルワンダ

c)　その他

2.5　ネットワーキング

2.6　ウェブサイト、SNS による情報発信

a)　センター公式ウェブサイト

b)　SNS（フェイスブック、ツイッター）

c)　メーリングリスト

2.7　来年度に向けた活動

a)　SAJU フォーラム事務局

b)　その他

3　センターの人員構成

4　活動記録

4.1　ASC セミナー一覧

4.2　協力イベント一覧

4.3　主要来訪者一覧

5　センター教員の業績

5.1　研究活動

a)　著作（単著・共著・編著）

b)　論文

c)　エッセイ、その他

d)　学会・シンポジウム・研究会等での報告

e)　一般向け講演

f)　企画・運営・事務局等

5.2　教育活動

a)　本学内における今年度担当授業

b)　本学以外における非常勤講師活動

5.3　対外活動、社会貢献

5.4　外部資金の獲得

a)　代表者

b)　分担金

別添

UP-TUFS セミナー、ASC セミナー、クラウドファンディング関連資料、協力イベントチラシ一覧

1. 概要

現代アフリカ地域研究センターが 2017 年 4 月に設立されてから、2 年が経過した。1 年目に撒いた種が徐々に芽を出し始めたという印象を得ている。研究者招へい、留学生招致、プレトリア大学との共同セミナー、ダルエスサラームでの国際会議、南アフリカ・日本大学フォーラム（SAJU フォーラム）事務局など、今年度の活動は多岐にわたったが、一貫して意識したのは、国内外のアフリカ研究機関とのネットワーク強化と人的交流の活性化を通じて、本学の研究・教育にポジティブな影響をもたらすことである。それは一定程度、成果を上げたと考えている。

ネットワークの強化に関しては、昨年来プレトリア大学（南アフリカ）との連携を戦略的に進めてきた。9 月には同大学において共同セミナー（UP-TUFS セミナー）を開催し、同時に本学のグローバル・ジャパン・オフィス（GJO）を同大に設置した。10 月～1 月にかけて 2 名の研究者を同大学から招へいし、本学の学部、大学院向けの講義を担当してもらった。この間本学から 2 名の学生が同大に留学し、2019 年 4 月から同大の学生 1 名が本学に留学することが決まっている。

9 月の共同セミナーの際には、ガーナ大学（ガーナ）、ヤウンデ第一大学（カメルーン）、プロテスタント人文・社会科学大学（ルワンダ）、社会経済研究所（モザンビーク）、ケープタウン大学（南アフリカ）からも研究者を招へいし、現地の JICA、JETRO 事務所からも報告者として参加を得た。プレトリア大学との共同セミナーに続いて、ダルエスサラームで開催された国際会議“Africa-Asia, a New Axis of Knowledge - Second Edition”に参加してパネルおよびラウンドテーブルを組織し、9 名の若手研究者をアジア、アフリカ諸国から招へいした。これら 2 つの会議のベースは、2019 年度から採択された科研費基盤研究（B）「アフリカ農村部における資源管理と政治権力」であり、共同研究の推進をネットワーク構築に結びつけて実施できたことは評価できる。

研究者の招へいはプレトリア大学だけでなく、ケープタウン大学（南アフリカ）とセントラル大学（ガーナ）からも行なった。いずれも 2～3 週間程度の短期であったが、セントラル大学の研究者には学部生向け集中講義を担当してもらい、2 人とも本センターが主催する ASC セミナーで講演する機会を得た。研究上のパートナーを日本に招き、教育にも関与してもらったことは、大きな成果だと考えている。

アフリカ人留学生の招致に関しては昨年度から様々な形で取り組んできたが、今年度ようやく実を結び始めた。トヨタ・ガーナ社の支援を得て、4 月に 1 名、10 月に 2 名の留学生がガーナ大学から来日した。また、本センターが主催したクラウドファンディングによって、10 月から 2 名のルワンダ人留学生（プロテスタント人文・社会科学大学）を招くことができた。アフリカ人留学生を招致してみると、本学学生への教育効果が非常に高いことがわかった。本学のアフリカ専攻の学生やアフリカに関心を持つ学生、また PCS（Peace and Conflict Studies）の学生にとっても、JASSO 奨学金を取得できるレベルの優秀なアフリカ人留学生の存在は、大きな刺激になっている。双方向の学生交流は、一方向の留学に比べて 2 倍以上の効果がある。

また、アフリカ研究の振興と人材育成を目的として、アフリカ研究を指向する大学院生への支援を行なった。具体的には、現地調査への支援（博士後期課程）と国際シンポジウムでの報告や聴講への支援（博士前期・後期課程）を提供した。こうした支援によって大学院生の水準を高めることは、本学のアフリカ研究の活性化と水準向上に資すると考えている。

情報発信は積極的に行なった。センター主催の ASC セミナーは 21 回開催した。研究セミナーとしてターゲットを大学院生レベルに据え、大部分（17 回）を英語による講演とした。講演者の多くは海外の研究者で、東京を来訪した際の講演であった。セミナーもまた、センターのネットワークを活用し、またそれを拡大する機会となった。セミナーはウェブサイトや SNS で告知し、また日本アフリカ学会関東支部とも積極的に共催したため、結果として多様な聴衆が集まった。また、インターネットを通じた情報発信の試みとして、アフリカ政治経済情勢に関する短信（「今日のアフリカ」）をウェブサイト、SNS で発信し、その数は約 100 回に達した。

2. 活動実績

2.1. 研究活動

現代アフリカ地域研究センターに所属するセンター教員の平成 30 年度における研究活動は、下記 5.1 に示すとおりである。

2.2. 教育活動

現代アフリカ地域研究センターに所属する教員はそれぞれ教育活動を行っているが（5.2.参照）、本センターではそれに加えて本学国際社会学部、総合国際学研究科に授業を提供するなどの教育活動を行なった。本節ではその点について整理する。

a) センター教員によるリレー講義（学部）

センター長と特任研究員 2 名が、国際社会学部開講の「アフリカ地域研究 A（現代アフリカの重要課題）」を担当した。この講義では、現代アフリカの重要課題である環境、宗教、紛争の概要を解説し、環境は桐越、宗教は松波、紛争は武内が担当した。

b) 招へい研究者による授業

招へい研究者 3 名による授業を開講した。それぞれの担当科目は以下に示すとおりである。

◆マブート・ジェネラス・シャンガセ（Mabutho Generous Shangase）

①国際社会学部　秋学期
科目名：アフリカ地域研究 B
題目名：Africa’s Development through Macro-Level Determinants

②総合国際学研究科　秋学期
科目名：アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18
題目名：African Public Policy

◆ガイルーニサ・パレケール（Gairoonisa Paleker）

①世界教養プログラム　秋学期

科目名：アフリカ地域言語 A

題目名：African spirituality

②総合国際学研究科　秋学期

科目名：アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18

題目名：African genocides in historical perspective

◆ベンジャミン・アモア（Benjamin Amoa）

①国際社会学部　冬学期（集中）

科目名：経済学 B

題目名：Development Finance

c) 日本貿易振興機構アジア経済研究所の研修事業「イデアス」の単位化

日本貿易振興機構アジア経済研究所では、15 か国以上のアジア・アフリカ諸国から研修員を招き、国際経済や開発に関する研修事業を提供している。この事業が「イデアス」（IDEAS：IDE Advanced School）であり、20 年以上の歴史がある。2018 年度から、本センターが本学とアジア経済研究所の間を取り持つ形で、本学学生（原則として大学院生）をイデアスに参加させる試みを開始した。秋学期に合わせてセットされたイデアス事業に、3 名の大学院生が参加した。

d) 学生支援

以下に示すとおり、現代アフリカ地域研究センターでは、PCS コースの学生を中心に、本学総合国際学研究科の大学院生に対して現地調査や国際シンポジウム参加への支援を行なった。

ア) 調査支援

博士後期課程の学生 3 名に対し、調査渡航の航空運賃および滞在費の支援を行なった。

◆博士後期課程　アメリア・マイシャ・シラス・ツンジネ（Amelia Maisha Silas Tunzine）

調査渡航先：モザンビーク共和国

調査期間：2018 年 12 月 5 日～2019 年 1 月 24 日

◆博士後期課程　イアン・カルシガリラ（Ian Karusigarira）

調査渡航先：ウガンダ共和国

調査期間：2019 年 2 月 27 日～2019 年 3 月 21 日

◆博士後期課程　エマニュエル・ビンセント・ネルソン・カロン（Emmanuel Vincent Nelson Kallon）
調査渡航先：シエラレオネ共和国
調査期間：2019 年 2 月 28 日～2019 年 3 月 26 日

イ) 国際シンポジウム参加支援

2019 年 1 月 27 日に京都大学にて開催された「International Symposium on African Potential and the Future of Humanity」への参加のため、本学の博士前期・後期課程学生 21 名に対して、交通費と滞在費の支援を行なった。

2.3. シンポジウム、セミナー

a) UP-TUFS セミナー

2018 年 9 月 13 日及び 14 日、プレトリア大学にて共同セミナー（UP-TUFS セミナー）を開催した。本セミナーは、当センターとプレトリア大学とが共催した国際学術セミナーであり、日本、南アフリカのみならず、カメルーン、ガーナ、ルワンダ、モザンビークからも発表者が参加し、両日で総勢 22 名の研究者・実務家が発表を行なった（プログラムは別添)。

本セミナーには、本学から武内進一現代アフリカ地域研究センター長の他、センターに所属する 3 名の講師（出町一恵、中山裕美、大石高典）と松波康男特任研究員、そして国際日本学研究院の友常勉教授が報告者として参加した。日本貿易振興機構アジア経済研究所からは網中昭世研究員と佐藤千鶴子研究員が参加し、さらに JICA 南アフリカ事務所の大嶋健介次長、JETRO ヨハネスブルク事務所の根本裕之所長も報告者として参加した。本セミナーへの招へい研究者のうち、アフリカの研究機関からの招へい者を以下に示す。

氏名	所属機関	国籍
Horman Chitonge	University of Cape Town	ザンビア
Lungisile Ntsebeza	University of Cape Town	南アフリカ
佐々木和之	Protestant Institute of Arts and Social Sciences	日本
Gloriose Umuziranenge	Protestant Institute of Arts and Social Sciences	ルワンダ
Annie Laure Ongsabien Efombo	Université de Yaoundé I	カメルーン
Marlène Ngansop Tounkam	Université de Yaoundé I	カメルーン
Carlos Uilson Muianga	Institute of Social and Economic Studies (IESE)	モザンビーク
Michael Godet Chico Alberto Sambo	Institute of Social and Economic Studies (IESE)	モザンビーク

Peter Narh	Institute of African Studies, University of Ghana	ガーナ
Agnes Naa Momo Lartey	Institute of African Studies, University of Ghana	ガーナ
Tontie Kanton Lurimuah	Institute of African Studies, University of Ghana	ガーナ

セミナーでの報告内容は、大きく 2 つに分かれる。初日は“UP and TUFS in the Context of South Africa - Japan Relations”というテーマのもとで、アフリカの歴史、土地、債務、移民問題に関する研究報告、東京の都市開発を巡る発表がなされた。さらに、JETRO 及び JICA の現地事務所からも発表者が招かれ、両組織の事業に関する発表も行われた。“Resource Management and Political Power in Rural Africa”というテーマで行なわれた二日目は、研究プロジェクト「アフリカ農村部における資源管理と政治権力」（基盤研究 B 研究代表者：武内進一）のキックオフ・ミーティングという性格もあり、同課題に関連するアフリカ各地の事例が報告され、議論が交わされた。2 日間で合計、7 つのセッションが組まれた。

なお、2019 年 3 月に、当セミナーでの報告を中心に編集されたワーキングペーパー集が当センターから発刊された。

b) 国際会議“Africa-Asia, a New Axis of Knowledge - Second Edition”への参加と協力

2018 年 9 月 20～22 日に開催された国際会議に参加し、パネル“Resource Management and Political Power in Rural Africa”およびラウンドテーブル“Resource Management and Political Power: Comparison Between Africa and Asia”を組織した。本事業は日本貿易振興機構アジア経済研究所との共催事業として実施し、同研究所から 2 名の研究員（網中昭世、佐藤千鶴子）および深井啓研究マネージメント職の参加を得た。会議開催に際して、同会議事務局（ライデン大学アジア研究国際研究所）が推薦する 7 名の若手研究者をアジア、アフリカ諸国から招へいした。その結果、本センターは同会議の協賛機関の一つとして、様々な機会に謝意を表された。本センターによる招へい研究者は次のとおりである（アステリスク（＊）は事務局から推薦を受けた研究者を示す）。

氏名	所属機関	国籍
Laban Kithinji Kinyua*	上智大学	ケニア
Lalita Hanwong*	Kasetsart University	タイ
Aarti Kawlra*	Madras Institute of Development Studies	インド
阿毛香絵*	L'École des hautes études en sciences sociales (EHESS)	日本
Kojo Opoku Aidoo*	University of Ghana	ガーナ
Seydou Fadoulourahmane*	Société Malienne des Sciences Appliquées	マリ

Karimatou Jocelyne Vokouma Boussari*	Institut des Sciences des Sociétés (INSS-CNRST)	ブルキナファソ
Horman Chitonge	University of Cape Town	ザンビア
Gloriose Umuziranenge	Protestant Institute of Arts and Social Sciences	ルワンダ

c) ASC セミナー

現代アフリカ地域研究センターが主催する ASC セミナーは、ウェブサイトや SNS に加えて当センターの開設したメーリングリスト（後述）を用いて広報している。平成 30 年度は、下記 4.1.に示すとおり、計 21 回のセミナーを開催し、通算で 32 回の開催に至った。今年度に開催した 21 回のうち、17 回は国際セミナーであった。別添に ASC セミナーのチラシを付す。

d) その他、協力イベント

以上のセミナーの他にも、下記 4.2.に示すとおり、様々なイベントに対して主催、共催などの形で協力した。昨年度に制度化された京都大学アフリカ地域研究資料センターとの共同主催のセミナー（TUFS-KU セミナー／KU-TUFS セミナー）は、平成 30 年度に計 5 回開催し、通算では 9 回の開催となった。学内では、アジア・アフリカ言語文化研究所との共催で企画展「祈りでつながるイスラーム：エチオピア西部の信仰とその歴史」を開催し、学生有志による企画「アフリカン・ウィークス 2018」においては共催として協力するとともに、当センターと国際社会学部大石ゼミによる写真展「アフリカの未来世代」と第 2 回 TUFS アフリカ写真コンテストを企画・実施した。

2.4. 人的交流

a) 研究者招へい

◆ホーマン・チトンゲ（Homan Chitonge）

所属・役職：ケープタウン大学アフリカ研究センターアフリカ研究部門・部門長（教授）

招へい期間：2018 年 6 月 26 日～2018 年 7 月 13 日

研究教育活動：

6 月 29 日　第 19 回 ASC セミナー（東京外国語大学）にて報告
「Is Africa Rising: Changing Fortunes or A Bleep on the Screen?」

7 月 2 日　APL セミナー（アジア経済研究所）にて報告
「African Entrepreneurs in the new millennium: Can the "Cheetah Generation" transform Africa?」

7 月 5 日　科研費プロジェクト「アフリカ農村部における資源管理と政治権力」研究会（東京外国語大学）にて報告
「Land Restitution in South Africa: The Post-settlement Dynamics and the Re-opening of Land Claims」

7 月 9 日　第 6 回 KU-TUFS セミナー（京都大学）にて報告

「Land Restitution in South Africa: The Post-settlement Dynamics and the Re-opening of Land Claim」

◆ガイルーニサ・パレケール（Gairoonisa Paleker）

所属・役職：プレトリア大学歴史遺産学科・上級講師

招へい期間：2018 年 10 月 1 日～2019 年 1 月 31 日

研究教育活動：

10 月-1 月　東京外国語大学国際社会学部講義「African Spirituality」、大学院総合国際学研究科講義「African Genocides in Historical Perspective」を担当

11 月 22 日　第 7 回 KU-TUFS セミナー（京都大学）にて報告
「Ethnic film in South Africa: history, meaning and change」

12 月 21 日　第 27 回 ASC セミナー（東京外国語大学）にて報告
「New Media, New History?: Some Reflections on Zulu and Its Afterlife in Historical Studies」

◆マブート・ジェネラス・シャンガセ（Mabutho Generous Shangase）

所属：プレトリア大学人文学部政治学科・講師

招へい期間：2018 年 10 月 1 日～2019 年 1 月 31 日

研究教育活動：

10 月-1 月　東京外国語大学国際社会学部講義「Africa's Development through Macro-Level Determinants」、大学院総合国際学研究科講義「African Public Policy」を担当

11 月 14 日　第 23 回 ASC セミナー（東京外国語大学）にて報告
「Institutional Stability and Change in South African Politics: Introducing Temporal Exponentiality」

12 月 13 日　APL セミナー（アジア経済研究所）にて報告
「From Critique to Fatigue: GEAR and the Elusive Paradigmatic Shift」

12 月 18 日　第 8 回 KU-TUFS セミナー（京都大学）にて報告
「Conjunctural State Autonomy and Policy Change in South Africa, 1994 -2014」

◆ベンジャミン・アモア（Benjamin Amoah）

所属：セントラル大学（ガーナ）・講師

招へい期間：2019 年 1 月 27 日～2019 年 2 月 11 日

研究教育活動：

1 月-2 月　東京外国語大学国際社会学部講義「Development finance」（集中講義）を担当

2 月 5 日　第 31 回 ASC セミナー（東京外国語大学）にて報告
「The Truth Behind Self-Assessed Financial Literacy and Retirement Planning」

2 月 6 日　科研費プロジェクト「天然資源依存経済におけるマクロ経済と産業の推移に関する分析」研究会（京都大学）にて報告
「The Financial Literacy-Retirement Planning Nexus: Any Role for Behavioral Finance?」

b) 留学生招致活動

ア) ガーナ

東京外国語大学との間で研究教育交流協定（MOU）を締結しているガーナ大学より、以下 3 名の留学生を招致した。なお、留学生招致にあたっては、トヨタ・ガーナ社から往復航空券の提供を受けた。

◆チャールズ・アチャンポン・アジェベン（Charles Acheampong Agyebeng）

2018 年 4 月 1 日～2018 年 7 月 17 日

ガーナ大学学部生（政治学専攻）。学部生向けに開講されている英語の授業を受講したほか、留学生日本語教育センターにより開講されている日本語学習の授業を受講した。

◆サミュエル・アマンクワァ・オコト（Samuel Amankwah Okoto）

2018 年 9 月 25 日～2019 年 2 月 13 日

ガーナ大学大学院生（政治学専攻）。大学院生向けに開講されている PCS コースの授業や当センター招へい研究者の授業などを受講した。

◆ナンシー・オセイ・チェ（Nancy Osei Kye）

2018 年 9 月 25 日～2019 年 2 月 13 日

ガーナ大学大学院生（政治学専攻）。大学院生向けに開講されている PCS コースの授業や当センター招へい研究者の授業などを受講した。

イ) ルワンダ

前年度の報告書における「今後の展開として、クラウドファンディングの可能性も模索している」という内容に沿って、2018 年度はクラウドファンディングを活用してルワンダにあるプロテスタント人文・社会科学大学（PIASS）から留学生を招致することを試みた。クラウドファンディングを利用することは本学にとってこれが初めての試みとなった。留学生を 2 名招致できる 100 万円を目標として資金調達に努めたところ、125 人の支援者から合計約 170 万円を獲得するという、目標を大幅に上回る結果を得ることができた。

◆クラウドファンディング実施概要

利用サービス：クラウドファンディングサイト「Readyfor」（https://readyfor.jp/）

プロジェクト名：「紛争を乗り越えて。ルワンダの大学から日本へ留学生を招こう」（https://readyfor.jp/projects/asc-piass/）

プロジェクト・タイプ：寄附型（All or Nothing）

＊募集期間内に目標額に達成した場合のみ、資金を受け取ることができる。

募集期間：2018 年 4 月 4 日～2018 年 5 月 31 日（58 日間）

目標金額：1,000,000 円

寄附総額：1,703,000 円

寄附者数：125 人

＊プロジェクト・ページの刷り出しは別添

当初は 2018 年度にのみ留学生 2 名を招致する予定であったが、目標額の約 1.7 倍を調達することができたため、2019 年度にもさらに 2 名の留学生を招致することにした。

◆第 1 次招致者

滞在期間：2018 年秋学期～2019 年春学期（2018 年 9 月末～2019 年 7 月半ば）

留学生名：

ムレカテテ・シュクル（Murekatete Shukulu）

国籍はルワンダ。PIASS 平和紛争研究学科 2 年。学部生向けに開講されている英語の授業を受講し、留学生日本語教育センターにより開講されている日本語学習の授業を受講している。

エリー・ロドリグ・イチャーツェ（Elie Rodrigue Ichiatse）

国籍はブルンジ。同じく PIASS 平和紛争研究学科 2 年。学部生向けに開講されている英語の授業を受講し、留学生日本語教育センターにより開講されている日本語学習の授業を受講している。

◆第 2 次招致者

滞在期間：2019 年秋学期～2020 年春学期（2019 年 9 月末～2020 年 7 月半ば予定）

留学生は現在、PIASS 側で学内選考中。

なお、寄附金は往復航空運賃および生活補助費として使用する。留学生は JASSO より毎月 8 万円の奨学金を支給されるが、これは東京で生活するには十分な額ではないため、航空券を購入した残額を毎月の生活費を補う形で使用してもらう。寄附金の使途内訳は以下のとおりである。

寄附総額	1,703,000 円
Readyfor 手数料（17%＋消費税）	312,670 円
入金額	1,390,330 円
1 人あたり支給額	347,582.5 円 ＊航空運賃：約 210,000 円 ＊生活補助費月額：約 13,7000 円

2018 年 11 月 8 日には、支援者の方々と留学生の交流会を開催（プログラムは別添）。本学の PIASS 留

学経験者によるルワンダ解説のあと、シュクルとロドリグより日本での留学生活について報告がなされた。支援者にとっては留学生との懇親を深めるだけでなくルワンダ事情にも接する機会となった。岩崎稔副学長、今回のプロジェクトにおいて PIASS 側の窓口となってくださった佐々木和之 PIASS 上級講師、アフリカからの留学生、国際社会学部アフリカ地域専攻の学生も参加し、総勢 60 名が集まった。

c) その他

ささやかな試みではあるが、毎週水曜の昼休みにセンターを開放し、学生らが自由に昼食を取れるようにしている。これにより、開講期間中は、センターがアフリカ人留学生と本学学生の交流の場として利用されるようになっており、とくにアフリカ地域専攻の学生を中心とした本学学生にもこの営みは認識されつつある。

2.5. ネットワーキング

上述した各種セミナー、シンポジウムを通じてネットワークの拡大を図っているが、その他の活動として特筆すべきものを記す。2018 年 7 月、武内センター長がガーナ、ルワンダ、南アフリカに出張し、ガーナ大学、プロテスタント人文・社会科学大学、プレトリア大学を訪問した。9 月にプレトリア大学で UP-TUFS セミナーを開催した際には、グローバル・ジャパン・オフィス開設の広報とあわせて、セミナー前日に学生向けに本学説明会を開催した。武内センター長が説明を行ない、その後留学中の本学学生が質問に答えた。また、セミナー直後にケープタウン大学等で開催された日本留学フェアに大石高典講師が参加し、本学について説明を行なった。センターに所属する教員、特任研究員は、アフリカ出張の折に、自分の調査国で主要な大学・研究機関とのネットワーキングを行なっている。また、センターの支援を受けてアフリカに出張した博士後期課程学生は、出張先で大学・研究機関を訪問し、センターや PCS についての説明を行なっている。

国内の研究機関との間では、京都大学アフリカ地域研究資料センターとの間で、昨年に引き続き、KU-TUFS セミナーを 5 回開催した。また、日本貿易振興機構アジア経済研究所との間では、ダルエスサラームでの国際会議を共催したほか、上述のとおりイデアスの研修事業に本学学生（原則として大学院生）を参加させる試みを開始した。

アフリカ関係事業を有する大学ネットワークである日本・アフリカ大学連携ネットワーク（JAAN）では、京都大学とともに副議長校を務め（議長校は北海道大学）、運営の一角を担った。また、武内が副委員長を務める日本学術会議・地域研究委員会・地域研究基盤強化委員会、事務局長を務める地域研究学会連絡協議会（JCASA）、渉外担当理事を務める日本アフリカ学会の活動も、本センターのネットワーキングに役立っている。

2.6. ウェブサイト、SNS による情報発信

a) センター公式ウェブサイト（http://www.tufs.ac.jp/asc/）

2017 年 7 月の公式ウェブサイト設置以来、閲覧者は着実に増加しており、今年度は通算 60,000 超のペ

ージビュー（閲覧されたページの合計数）が確認できた（2 月 15 日現在）。なかでもアフリカ関連情報の短信ページである「今日のアフリカ」、スタッフ紹介ページ及び、クラウドファンディングの広報記事等の閲覧がとりわけ多かった。なお、今年度は 220 本を超える記事を更新した（内訳は表 1）。

表 1　HP 記事更新数内訳

2018 年度	センターＨＰ（全て記事公開日を基準にカウント）							
公開月	お知らせ	活動記録					今日のアフリカ	現代アフリカ教育研究基金
		センターの活動	研究成果	研究プロジェクト	ＡＳＣセミナー	招へい研究者・留学生		
2018 年 4 月	4	1	5		2	2	8	5
2018 年 5 月	2		9	2	1	1	9	1
2018 年 6 月	9		2		4	1	10	1
2018 年 7 月	2	3	2		2	4	7	
2018 年 8 月	1					1	8	
2018 年 9 月	1	3				1	7	1
2018 年 10 月	2	5	2		2	4	15	
2018 年 11 月	4				2	3	9	1
2018 年 12 月	9	5	1		3		10	
2019 年 1 月	3	4	1		3	5	9	
2019 年 2 月	3	1			2	3	8	
2019 年 3 月*		2				1	2	
合計	40	24	22	2	21	26	102	9

*3 月分の集計データは 3 月 11 日現在のもの

b) SNS（フェイスブック、ツイッター）

センターに関する最新情報については、フェイスブック及びツイッターといった SNS でも発信している。現在の各フォロワーは、フェイスブック 250 人、ツイッター300 人を超えるなど、昨年度末からそれぞれ 100 人以上増加している。今年度の投稿記事（ツイート）数等の詳細を、表 2 のとおりまとめた。

表 2　SNS 更新数内訳

2018 年度	ツイッター			フェイスブック		
公開月	ツイート数	リツイート	いいね！	記事投稿数	いいね！	フォロワー
4 月	22	39	60	31	20	24
5 月	16	25	33	20	14	17
6 月	15	23	30	21	15	23
7 月	8	8	13	10	4	4

8 月	9	29	30	10	4	6
9 月	9	11	24	13	9	8
10 月	11	17	23	15	10	11
11 月	12	14	18	18	8	7
12 月	9	5	12	16	7	10
1 月	12	14	21	16	5	6
2 月	14	15	34	16	9	9
3 月*	5	4	7	6	2	2
合計	142	204	305	192	107	127

＊3 月分の集計データは 3 月 11 日現在のもの

c) メーリングリスト

センターの事業の広報のためにメーリングリストを構築している。2017 年 12 月から開始し、登録者数は 2019 年 2 月末で 481 名である。登録者は主にセンター関係者が名刺交換をした方々で、研究者や学生だけでなく、官公庁や JICA、JETRO など独立行政法人の職員、一般企業や NGO など多岐にわたる。主として、ASC セミナーの広報に利用している。

2.7. 来年度に向けた活動

a) SAJU フォーラム事務局

日本アフリカ大学フォーラム（SAJU フォーラム）は、高等教育分野における南アフリカ共和国と日本の間の学術交流・協働の枠組み構築を目的とし、2019 年 5 月 23、24 日にプレトリア大学“Future Africa”キャンパスで開催される。これに関して本センターは、JAAN の協力を得つつ、日本側事務局を務め、日本側参加校の取りまとめにあたっている。

b) その他

2019 年 8 月に第 7 回アフリカ開発会議（TICAD7）開催をひかえ、プレイベント（パートナー事業）やサイドイベントの企画を行なっている。

3. センターの人員構成

現代アフリカ地域研究センターのスタッフは次のとおりである（2019 年 3 月 15 日現在）。

名前	役職／担当
武内進一	センター長
出町一恵	センター教員（専任）
中山裕美	センター教員（専任）
大石高典	センター教員（専任）
深澤秀夫	センター教員（兼担）

石川博樹	センター教員（兼担）
苅谷康太	センター教員（兼担）
箕浦信勝	センター教員（兼担）
中川裕	センター教員（兼担）
坂井真紀子	センター教員（兼担）
椎野若菜	センター教員（兼担）
品川大輔	センター教員（兼担）
桐越仁美	特任研究員
松波康男	特任研究員
名井良三	アドバイザー
緑川奈津子	事務局

4. 活動記録

4.1. ASC セミナー一覧

回	開催日	講師	題目	備考
12	4 月 11 日	アレックス・デ・ヴァール（マサチューセッツ州タフツ大学世界平和基金・代表理事／フレッチャー法律外交大学院・教授）	Africa, Multilateralism and the Emerging Global Order	
13	4 月 20 日	ユン・オスン（京都大学アフリカ地域研究資料センター・客員教授）	South Korea-Africa Encounters via Culture and Arts: The Case of Seoul Africa Festival	第 5 回 TUFS-KU セミナーを兼ねる
14	5 月 11 日	アディブ・ベンシェリフ（オタワ大学社会科学研究科・博士課程＜政治学専攻＞／アフリカ・中東協同研究センター＜CIRAM＞・主任研究員／国境なき弁護士団カナダ支局・顧問ほか）	Security Issues in the Sahel-Sahara region: An illustration through the Malian conflict	
15	6 月 1 日	大竹モルナー裕子（オックスフォード大学医療人類学部・客員研究員）	世代を超えてゆく癒し—北部ルワンダにおける紛争後コミュニティ復興と人道支援再考—	
16	6 月 8 日	山下光（防衛研究所 理論研究部政治・法制研究室長）、篠田英朗（東京外国語大学・教授）	Global Peacekeeping, International Criminal Court, and Africa Global Peacekeeping Cooperation: Contexts, Patterns, and Implications（Dr. Yamashita） AU's Withdrawal from ICC in the Age of Partnership Peacekeeping（Prof. Shinoda）	

17	6 月 13 日	熊木孝太（東京外国語大学総務企画課）／アブドゥン・ナシール（つくば国際スポーツアカデミー＜TIAS＞）／セレスタン・ンゼイマナ（TIAS）／ディディエ・シェマ＝ンバボコ（TIAS）	ASC-TIAS Joint Seminar: Toward Tokyo 2020 Olympic Paralympic Games	
18	6 月 21 日	阿毛香絵（フランス国立社会科学高等研究院＜EHESS＞文化人類学・博士課程／EHESS 日仏財団・研究員）	セネガルの若者たちとイスラーム～神秘主義、ポピュラーカルチャー、社会運動～	
19	6 月 29 日	ホーマン・チトンゲ（ケープタウン大学アフリカ研究センター・准教授／東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター・特別招へい教授）	Is Africa Rising: Changing Fortunes or A Bleep on the Screen?	
20	7 月 12 日	桐越仁美（東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター・特任研究員）	人の移動と物流を支えるゾンゴ・ネットワーク：ガーナにおける移民コミュニティ「ゾンゴ」を介した情報伝達と人びとの交流	日本アフリカ学会関東支部例会/明治大学アフリカ研究会（国際日本学部・溝辺ゼミ）を兼ねる
21	10 月 12 日	白戸圭一（立命館大学国際関係学部・教授）	企業が作るアフリカ	日本アフリカ学会関東支部例会を兼ねる
22	10 月 26 日	スカーレット･コーネリッセン（ステレンボッシュ大学・教授／ジェトロ･アジア経済研究所・客員研究員）	South Africa's Economic and Political Relations with Northeast Asia	日本アフリカ学会関東支部例会を兼ねる
23	11 月 14 日	マブート・ジェネラス・シャンガセ（プレトリア大学人文学部政治学科・講師／東京外国語大学・客員教授）	Institutional Stability and Change in South African Politics: Introducing Temporal Exponentiality	日本アフリカ学会関東支部例会を兼ねる
24	11 月 16 日	サミュエル・イルング・ンジャウ（Summit International Institute 学長、創設者）	Issues and Challenges Facing Burundi: From the Perspective of Higher Education	日本アフリカ学会関東支部例会を兼ねる
25	12 月 6 日	レイモン･ルンブエナモ（キンシャサ大学・教授／熱帯林･土地管理に関わる UNESCO 地域大学院大学（ERAIFT）・教授／世界銀行・資源管理専門家／元 WWF 地域局長）	Inter-Basin Water Transfer: From the Congo Basin to Lake Chad: Challenges and Opportunities	日本アフリカ学会関東支部例会、アフリカン・ウィー

				クス企画を兼ねる
26	12 月 10 日	オーウェン･グリーン（ブラッドフォード大学・教授）	Human Security, Peace Building and State-Building in Peace Missions: Dilemmas and Lessons Learned from Africa	日本アフリカ学会関東支部例会を兼ねる
27	12 月 21 日	ガイルーニサ･パレケール（東京外国語大学・客員教授／プレトリア大学歴史遺産学科・上級講師）	New Media, New History?: Some Reflections on Zulu and Its Afterlife in Historical Studies	
28	1 月 9 日	山口正大（国際連合マリ多元統合安定化ミッション・DDR 担当官）、今井ひなた（東京外国語大学大学院総合国際学研究科・博士後期課程）	New Development of Security Governance in Africa	日本アフリカ学会関東支部例会を兼ねる
29	1 月 15 日	ナーボレ･サッキーフィオ（オハイオ州立マイアミ大学教養学部国際･異文化研究学科・助教授）	Negotiating Power and Agency in Ghana's Asian Nexus	日本アフリカ学会関東支部例会を兼ねる
30	1 月 24 日	チャン･ヨンギュ（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・客員教授／韓国外国語大学アフリカ研究所長）	A System of Knowledge in Action: The Logical Process and Cognitive Interpretation of Zulu Divination	日本アフリカ学会関東支部例会／第 9 回 TUFS-KU セミナーを兼ねる
31	2 月 5 日	ベンジャミン･アモア（東京外国語大学・特別招へい講師／セントラル大学＜ガーナ＞・講師）	The Truth Behind Self-Assessed Financial Literacy and Retirement Planning	日本アフリカ学会関東支部例会を兼ねる
32	2 月 12 日	ウスマン･アダマ（マルア大学＜カメルーン＞・上級講師／国立民族学博物館・客員フェロー）	Boko Haram Insurgency in Northern Cameroon and Nigeria	日本アフリカ学会関東支部例会を兼ねる

4.2. 協力イベント一覧

協力形態	開催日	イベント名	関係機関
共催	4 月 21 日-22 日	第 27 回日本ナイル・エチオピア学会学術大会（会場：東京外国語大学アゴラ・グローバル、同アジア・アフリカ言語文化研究所）	共催：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、同現代アフリカ地域研究センター
共催	4 月 21 日	第 27 回日本ナイル・エチオピア学会学術大会公開シンポジウム「食と農が支えたナイ	共催：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、同現代アフリカ地域研究センタ

		ル・エチオピア地域の歴史と文化」	ー
共催	4 月 23 日-5 月 25 日	企画展「祈りでつながるイスラーム：エチオピア西部の信仰とその歴史」	共催：AA 研、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター、科学研究費基盤研究（B)「エチオピアにおけるイスラーム化の史的検証：アラビア文字資料の収集・分析を通して」(代表：石原美奈子，課題番号: 17H04528)
共催	6 月 1 日	展示解説「祈りでつながるイスラーム：エチオピア西部の信仰とその歴史」	共催：AA 研、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター
共同主催	7 月 9 日	【第 6 回 KU-TUFS セミナー】「Land Restitution in South Africa: The Post-settlement Dynamics and the Re-opening of Land Claims」	共同主催：東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター、京都大学アフリカ地域研究資料センター
共同主催	11 月 22 日	【第 7 回 KU-TUFS セミナー】「Ethnic film in South Africa: history, meaning and change」	共同主催：東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター、京都大学アフリカ地域研究資料センター
主催	12 月 3 日-21 日	写真展「アフリカの未来世代」・第 2 回 TUFS アフリカ写真コンテスト	主催：現代アフリカ地域研究センター、国際社会学部大石ゼミ 共催：アフリカン・ウィークス 2018 実行委員会、NPO 法人アフリック・アフリカ
協力	12 月 7 日	African Weeks2018×TUFS Cinema「デザート・フラワー」	主催：アフリカン・ウィークス 2018 実行委員会、東京外国語大学 TUFS Cinema 協力：現代アフリカ地域研究センター、新日本映画社／エスパース・サロウ
共催	12 月 14 日	African Weeks トークライブ企画「日常にあふれる多様性～アフリカと日本～」	主催：アフリカン・ウィークス 2018 実行委員会
共同主催	12 月 18 日	【第 8 回 KU-TUFS セミナー】「Conjunctural State Autonomy and Policy Change in South Africa, 1994 -2014」	共同主催：東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター、京都大学アフリカ地域研究資料センター

4.3. 主要来訪者一覧

2018 年 10 月 10 日　在日ジンバブエ共和国大使館　ロイド・シーレ臨時代理大使、タオナ・ハバディ参事官

2018 年 10 月 24 日　在日タンザニア共和国大使館　ジョン・F・カンボナ全権公使

2018 年 10 月 31 日　在日南アフリカ共和国大使館　ロイス・B・クズワヨ公使大使他 1 名

2018 年 12 月 5 日　在日マダガスカル共和国大使館ミレイユ・ラクトゥマララ大使他 2 名

2018 年 12 月 10 日　社会科学高等研究院（フランス）　アフリカ専門研究者エロワ・フィケ博士

2018 年 12 月 12 日　在日ボツワナ共和国大使館　カティエゴ・ペレ一等書記官

2018 年 1 月 29 日　マリ共和国外務・国際協力省　マハマヌ・アマドゥ・マイガ事務次官、在日マリ共和国大使館カマラ・ジャラ一等参事官

このほか、アフリカ各国の情勢や現地事情、また日本国内のアフリカ研究者間ネットワークなどについて助言を求め、日本国内外の各機関よりたびたび、来訪者があった。主要な訪問者は、防衛研究所の研究員、在日米国大使館一等書記官、朝日新聞経済部記者、農林水産省研究員、外務省職員、上智大学研究員、都内私立高校教員、株式会社パデコ（国際開発コンサルティング会社）、日本森林技術協会研究員、ソウル大学教授などである。

また、センターへ来訪はしていないが、名井アドバイザーらがソマリア外務省国際協力局長やアンゴラ水･エネルギー大臣といった各国要人と意見交換をする機会もあった。

5. センター教員の業績

5.1. 研究活動

a) 著作（単著・共著・編著）

Kirikoshi, Hitomi, Yasuo Matsunami, Shinichi Takeuchi, and Natsuko Midorikawa, Eds. 2018. *Proceedings of the ASC – TUFS 'Kickoff' Symposium "Frontiers of African Studies"*. Tokyo: African Studies Center – Tokyo University of Foreign Studies.

Kirikoshi, Hitomi, Yasuo Matsunami, and Shinichi Takeuchi, Eds. 2019 *ASC–TUFS Working Papers 2018 "Development, Migration, and Resources in Africa"*. Tokyo: African Studies Center – Tokyo University of Foreign Studies.

Nakagawa, Hirosi and Andy Chebanne Eds. 2018. *[Anthony Traill's posthumous manuscript] A Trilingual !Xóõ Dictionary: !Xóõ-English-Setswana*. Köln: Rüdiger Köppe Verlag.

Shinagawa, Daisuke and Yuko Abe 2019. *Descriptive materials of morphosyntactic microvariation in Bantu*. Tokyo: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA).

b) 論文

Demachi, Kazue 2018. "Periphery or Battlefront: Africa in the International Economy". In *Proceedings of the ASC – TUFS 'Kickoff' Symposium "Frontiers of African Studies"*. Eds. H. Kirikoshi, Y Matsunami, S. Takeuchi, and N. Midorikawa, Tokyo: African Studies Center – Tokyo University of Foreign Studies, pp. 55–68.

出町一恵、金京拓司(2018)「開発途上国のドル化とマクロ経済安定化」,『国民経済雑誌』第 218 巻第 2 号（神戸大学経済経営学会）, pp. 15–29.

Demachi, Kazue 2019. "New African debts and natural resource dependence". In *ASC–TUFS Working Papers 2018 "Development, Migration, and Resources in Africa"*. Eds. H. Kirikoshi, Y. Matsunami, and S. Takeuchi, Tokyo: African Studies Center – Tokyo University of Foreign Studies, pp. 5–27.

石川博樹(2019)「古地図が物語るアフリカ史」,『地図情報』第 38 巻第 4 号（地図情報センター）, pp. 14–19.

Kariya, Kota 2018. "*Muwālāt* and Apostasy in the Early Sokoto Caliphate". *Islamic Africa* 9(2): 179–208（査読有）.

Kirikoshi, Hitomi 2019. "Migrants' participation in cocoa production: Trust building among multi-ethnic group in

West Africa". In *ASC–TUFS Working Papers 2018 "Development, Migration, and Resources in Africa".* Eds. H. Kirikoshi, Y. Matsunami, and S. Takeuchi, Tokyo: African Studies Center – Tokyo University of Foreign Studies, pp.45–59.

松波康男(2019)「『南スーダンにおける紛争解決合意（ARCSS）』署名を巡る IGAD 加盟国の関与」,『アフリカレポート』No.57（ジェトロ・アジア経済研究所）, pp. 1–12.（査読有）

Nakayama, Yumi 2018. "Migration Governance: Migration within and from Africa". In *Proceedings of the ASC – TUFS 'Kickoff' Symposium "Frontiers of African Studies"*. Eds. H. Kirikoshi, Y Matsunami, S. Takeuchi, and N. Midorikawa, Tokyo: African Studies Center – Tokyo University of Foreign Studies, pp. 27–35.

Nakayama Yumi 2019. "Multilateral migration governance in SADC countries". In *ASC–TUFS Working Papers 2018 "Development, Migration, and Resources in Africa".* Eds. H. Kirikoshi, Y. Matsunami, and S. Takeuchi, Tokyo: African Studies Center – Tokyo University of Foreign Studies, pp.29–43.

Bajić, Vladimir, Chiara Barbieri, Alexander Hübner, Tom Güldemann, Christfried Naumann, Linda Gerlach, Falko Berthold, Hirosi Nakagawa, Sununguko W. Mpoloka, Lutz Roewer, Josephine Purps, Mark Stoneking and Brigitte Pakendorf 2018. "Genetic structure and sex-biased gene flow in the history of southern African populations". *American Journal of Physical Anthropology* 167(3): 656–671（査読有）.

Güldemann, Tom, and Hirosi Nakagawa 2018. "Anthony Traill and the holistic approach to Kalahari Basin sound design". *Africana Linguistica* 24: 45–73（査読有）.

Alena Witzlack-Makarevich and Hirosi Nakagawa 2019 (in press). "Linguistic Features and Typologies in Languages Commonly Referred to as 'Khoisan'" in H. Ekkehard Wolff (Ed.) *The Cambridge Handbook of African Linguistics.* Cambridge: Cambridge University Press.

Oishi, Takanori 2018. "Sustaining Forest Livelihoods in an Era of Climate Change: Dialogue beyond "Participation" and "Community" Arguments". In *Proceedings of the ASC – TUFS 'Kickoff' Symposium "Frontiers of African Studies".* Eds. H. Kirikoshi, Y Matsunami, S. Takeuchi, and N. Midorikawa, Tokyo: African Studies Center – Tokyo University of Foreign Studies, pp. 83–94.

大石高典(2018)「【環境人類学】ウィリアム・バリー（William Balee）」, 岸上伸啓編『はじめて学ぶ文化人類学』, ミネルヴァ書房, pp. 227–232.

大石高典(2018)「野生鳥獣肉の持続的な消費: 日本の課題をグローバルにとらえ返す（特集：ジビエ利用の可能性・共生と資源管理）」,『農業と経済』2018 年 6 月号（昭和堂）, pp. 46–55.

Oishi, Takanori 2018. "Sustaining Forest Livelihoods in an Era of Climate Change: Dialogue beyond "Participation" and "Community" Arguments". In *ASC–TUFS Working Papers 2018 "Development, Migration, and Resources in Africa".* Eds. H. Kirikoshi, Y. Matsunami, and S. Takeuchi, Tokyo: African Studies Center – Tokyo University of Foreign Studies, pp. 83–94.

Ngansop T., Marlene, Denis J. Sonwa, Evariste Fongnzossie F., Biyé Elvire H., Forbi Preasious F., Takanori Oishi, and Nkogmeneck Bernard-Aloys 2019. "Identification of main Non-Timber Forest Products and related stakeholders in its value chain in the Gribe village of southeastern Cameroon". In *ASC–TUFS Working Papers 2018 "Development, Migration, and Resources in Africa".* Eds. H. Kirikoshi, Y. Matsunami, and S. Takeuchi,

Tokyo: African Studies Center – Tokyo University of Foreign Studies, pp.181–191.

大石高典（2019：印刷中）「市場のアフリカ漁民たち――コンゴ共和国ブラザビル市のローカル・マーケットの観察から」，今井一郎編『アフリカ漁民文化論』(春風社).

Takeuchi Shinichi 2018. “Introduction to the International Symposium 'Frontiers of African Studies'”. In *Proceedings of the ASC – TUFS ‘Kickoff’ Symposium “Frontiers of African Studies”*. Eds. H. Kirikoshi, Y Matsunami, S. Takeuchi, and N. Midorikawa, Tokyo: African Studies Center – Tokyo University of Foreign Studies, pp. 3–6.

武内進一(2018)「内戦後の土地問題とピネイロ諸原則―ルワンダ・ブルンジの比較から」，『国際法外交雑誌』117(1): 181–199.（査読有）

武内進一(2018)「中央アフリカ共和国のイスラーム――その理解のための基礎作業」，佐藤章編『アフリカの政治・社会変動とイスラーム（基礎理論研究会成果報告書）』（ジェトロ・アジア経済研究所），pp.85-99.

武内進一（2018）「冷戦後アフリカの紛争と平和構築の課題―日本のアフリカ外交への示唆―」，一般社団法人平和政策研究所 HP 政策オピニオン 2018 年 8 月 13 日（一般社団法人平和政策研究所） ＊https://ippjapan.org/archives/1160
＊同じ内容が『世界平和研究』No.220: 24–38. に掲載）

Takeuchi, Shinichi 2019. “Development and Developmentalism in Post-genocide Rwanda”. In *Developmental State Building: The Politics of Emerging Economies*. Eds Yusuke Takagi, Veerayooth Kanchoochat, and Tetsushi Sonobe, Singapore: Springer, pp.121–134.

Takeuchi, Shinichi 2019. “Land and power in Africa: The effects of recent land reform”. In *ASC–TUFS Working Papers 2018 “Development, Migration, and Resources in Africa”*. Eds. H. Kirikoshi, Y. Matsunami, and S. Takeuchi, Tokyo: African Studies Center – Tokyo University of Foreign Studies, pp. 63–79.

武内進一（2019）「紛争」落合雄彦編著『アフリカ安全保障論入門』（晃洋書房），pp.43-54.

c) エッセイ、その他

石川博樹（2019）「史跡を巡り、ごちそうに出会う」，『フィールドプラス』第 21 号（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所），pp. 18–19.

桐越仁美（2018）「西アフリカの人びとの暮らしと移動を分析する」，『GIS NEXT』第 65 号（ネクストパブリッシング），pp. 64.

桐越仁美（2018）「木陰の手仕事」，特定非営利活動法人アフリック・アフリカ HP『アフリカ便り』2018 年 11 月 25 日（特定非営利活動法人アフリック・アフリカ） ＊http://afric-africa.vis.ne.jp/essay/hand18.htm

松波康男（2018）（新書紹介）「『ストリートの精霊たち』川瀬滋（2018）」，『アフリカ研究』第 94 号（日本アフリカ学会）.

名井良三（2018）「中国パワーと日本の対応（特集アフリカNOW～未来の大陸の可能性を探る～内）」，『東京外語会会報 NO.144』（東京外語会），pp. 8–10.

名井良三（2019）（記事作成協力）「府中の窓 初のクラウドファンディング留学生」，東京外語会会報 No.145（東

京外語会), pp. 45.

大石高典(2018)「歴史が知を育む——アフリカの森と図書館の共通性」, 読書冊子『pieria』2018 年春号(東京外国語大学出版会＆東京外国語大学附属図書館), pp. 40–41.

高橋康介・島田将喜・大石高典・錢琨(2018)「続・顔と身体表現の多文化比較フィールド実験研究」, 床呂郁哉編『トランスカルチャー状況下における顔・身体学の構築(第二回)』(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所), pp. 34–53.

大石高典(2018)「獣肉食は日常化するか—都市での獣肉消費と肉食の倫理」,『民博通信』162 号(国立民族学博物館), pp. 20–21.

大石高典(2018)「熱帯狩猟採集民社会における社会的存在としての犬—カメルーンのバカ・ピグミーにおける犬をめぐる社会関係とトレーニング—」,『生態人類学会ニュースレター』No. 24(生態人類学会), pp. 25–27.

大石高典(2018-2019)「(連載)河童のアフリカ研究(#4 地球たんけんたい、カメルーンへ／#5 アボンバンの町／#6「若者の日」とお笑い文化／#7 ミスメ村で心をはかられる／#8 バカ・ピグミーと植物学／#9「何も教えない」教え方／#10 街道のグルメ／#11 亀とウサギ、あるいは低速バスとレンタカー／#12 アフリカのクルマ事情／#13 レンタカーの運転手に集中講義を受ける／#14 カムフラングレ——混じり合う言語)」, 俳誌『氷室』(氷室発行所).

武内進一(2018)「東京外国語大学のアフリカ研究と現代アフリカ地域研究センター」,『AFRICA』Vol. 58(春号), pp. 18–21.

Takeuchi, Shinichi 2018. "Introduction to the International Symposium 'Frontiers of African Studies'". In *Proceedings of the ASC – TUFS 'Kickoff' Symposium "Frontiers of African Studies"*. Eds. H. Kirikoshi, Y. Matsunami, S. Takeuchi, and N. Midorikawa, Tokyo: African Studies Center – Tokyo University of Foreign Studies, pp. 3–6.

武内進一(2018)「東京外国語大学とアフリカ(特集アフリカ NOW～未来の大陸の可能性を探る～内)」,『東京外語会会報 NO.144』(東京外語会), pp. 6–8.

武内進一(2018)「アフリカとどう付き合うか」,『週刊世界と日本』第 2138 号(内外ニュース), 二面

武内進一(2018)(資料紹介)「湖中 真哉、太田 至、孫 暁剛 編『地域研究からみた人道支援——アフリカ遊牧民の現場から問い直す——』」,『アフリカレポート』No.56(ジェトロ・アジア経済研究所), pp. 75.

武内進一(2019)(資料紹介)「磯部 裕幸 著『アフリカ眠り病とドイツ植民地主義 ——熱帯医学による感染症制圧の夢と現実——』」『アフリカレポート』No.57(ジェトロ・アジア経済研究所), pp. 17.

d) 学会・シンポジウム・研究会等での報告

出町一恵 「New African debts in the post-crisis international economy」, 国際経済学会関東支部研究会, 2018 年 4 月 21 日(日本大学).

出町一恵 「New African debts in the post-crisis international economy」, 国際経済学会第 8 回春季大会, 2018 年 6 月 16 日(北海道大学).

Demachi, Kazue "New African Debts and Procyclicality of the Macroeconomy". *'UP-TUFS Seminar'*. September

13, 2018, University of Pretoria, South Africa.

Demachi, Kazue "New African Debts and Natural Resource Dependence". *The JSPS Alumni Club in Denmark Activity Seminar, "Natural Resources Bringing Japan and Africa Closer"*. October 11, 2018, Aarhus University, Denmark.

石川博樹 「文字記録から見たエチオピアの諸王国における農業」, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「アフリカ農業・農村社会史の再構築:在来農業革命の視点から」(代表:鶴田格)2018 年度第 3 回研究会, 2019 年 3 月 2 日(東京外国語大学本郷サテライト).

苅谷康太 「西アフリカにおけるムスリムと非ムスリムの境界」, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・基幹研究「中東・イスラーム圏における分極化とその政治・社会・文化的背景」2018 年度中東☆イスラーム教育セミナー, 2018 年 9 月 14 日(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所).

苅谷康太 「コメント」, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 2018 年度フィールドネット・ラウンジ企画「西アフリカ・イスラーム研究の新展開」, 2019 年 1 月 26 日(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所).

桐越仁美 「ガーナ北西部における農耕民ダガーレのマウンドと畝を用いた水食対策」, 日本アフリカ学会第 55 回学術大会, 2018 年 5 月 26 日(北海道大学).

大山修一・桐越仁美・原将也・堀光順・青池歌子・イブラヒム マンマン 「西アフリカ・サヘル地域における都市ゴミを活用した緑化と炭素固定の効果」, 日本熱帯生態学会第28回年次大会, 2018年6月9日(静岡大学).

桐越仁美 「人の移動と物流を支えるゾンゴ・ネットワーク—ガーナにおける移民コミュニティ『ゾンゴ』を介した情報伝達と人びとの交流」, 第 20 回 ASC セミナー/日本アフリカ学会関東支部 2018 年度第 1 回例会/明治大学アフリカ研究会(国際日本学部・溝辺ゼミ), 2018 年 7 月 12 日(明治大学中野キャンパス).

桐越仁美 「西アフリカ商売世界の拡大—コーラ交易におけるハウサ商人の取引事例から」, 科学研究費基盤研究(B)「アフリカ農民の生計における小規模な現金獲得活動と『在来の技術革新史』への視角」(代表者:杉山祐子)研究会, 2018 年 11 月 3 日(弘前大学).

松波康男 「南スーダンの紛争解決に対する IGAD 構成国の関与」, 日本アフリカ学会第 55 回学術大会, 2018 年 5 月 27 日(北海道大学).

Matsunami, Yasuo "Oromo Nationalism and the 'Heritagisation' in Ethiopia". *'UP-TUFS Seminar'*. September 14, 2018, University of Pretoria, South Africa.

中川裕 「カラハリ狩猟採集民の言語における飲食動詞の類型論的特徴」, 日本アフリカ学会第 55 回学術大会, 2018 年 5 月 27 日(北海道大学).

中川裕 「声調交替のパラディグマティックな説明:グイ語における2つの畳語パラダイムの相互作用音韻史」, 日本言語学会第 156 回大会, 2018 年 6 月 23 日(東京大学本郷キャンパス).

中川裕 「くちあたりの音象徴の言語相対性と普遍性:コイサン事例研究」,「外国語と日本語との対照言語学的研究」第 25 回研究会, 2018 年 7 月 7 日(東京外国語大学語学研究所).

Nakagawa, Hirosi "Click acquisition in G|ui". *The 9th World Congress of African Linguistics*, August 25, 2018, Mohammed V University, Morocco.

中山裕美 「難民ガバナンスにおける『保護する責任』の実践―国家・市民 社会の関係から―」, グローバル・ガバナンス学会第 11 回研究大会, 2018 年 5 月 13 日（東京外国語大学国際関係研究所）.

Nakayama, Yumi "Analysis of Multilateral Migration Governance in Southern Africa". *'UP-TUFS Seminar'*. September 13, 2018, University of Pretoria, South Africa.

Nakayama, Yumi "Japanese Aid in Africa through The Trust Fund for Human Security: Views from Refugees". *The 21st Japan EU Conference*. October 30, 2018, Egmont – the Royal Institute for International Relations, Brussel.

大石高典・飯塚宜子 「カメルーンのバカ・ピグミーにおける在来知識と学校教育――ローカルNGOとの対話から」, 日本アフリカ学会第 55 回学術大会, 2018 年 5 月 26 日（北海道大学）.

大石高典 「カメルーンにおける顔認知の野外実験研究――フィールドでの経験からみた可能性と成果共有の課題について」, 日本文化人類学会第 52 回研究大会・分科会「文化人類学と異分野のコラボレーション：達成したこと・問題点・今後の課題」（代表：島田将喜）, 2018 年 6 月 2～3 日（弘前大学）（査読有り）.

Oishi, Takanori, Moise Mvetumbo, Evariste Fedoung "Caring dogs for hunting among the Baka hunter-gatherers of southeastern Cameroon". *The Twelfth International Conference on Hunting and Gathering Societies (CHAGS 12)*. July 25, 2018, Universiti Sains Malaysia, Malaysia.

Fongnzossie Fedoung, Evariste, Takanori Oishi, Marlene Ngansop "Assessing the influence of education on plant-based traditional hunting knowledge among Baka hunter gatherers in East Cameroon". *The Twelfth International Conference on Hunting and Gathering Societies (CHAGS 12)*. July 27, 2018, Universiti Sains Malaysia, Malaysia.

Oishi, Takanori "Impact of trade in forest products during the colonial period upon forests and the local community: An attempt to integrate the historical ecology of an African tropical forest with global history". *UP-TUFS Seminar'*. September 14, 2018, University of Pretoria, South Africa.

Kobayashi, Mai and Takanori Oishi "The informal food economy of Tsushima Island". *World Social Science Forum: WSSF 2018 Fukuoka*. September 26, 2018, Fukuoka International Congress Center, Japan.

Oishi, Takanori "How can local stakeholders make the room for negotiation?: Addressing the paradox of 'participation' and 'community' in forest management policies in southeastern Cameroon". *The first IUFRO (International Union of Forest Research Organizations) social sciences conference on "African forest-related policies and politics"*. September 26, 2018, Yaoundé, Cameroon.

Kobayashi, Mai and Takanori Oishi "Mujin hanbai and informal economy". *RIHN Feast Project Annual Assembly 2018-2019*. January 13, 2019, Research Institute for Humanity and Nature, Japan.

Oishi, Takanori "Challenges in wild meat production and consumption in contemporary world: a cross-regional comparison". *RIHN Feast Project Annual Assembly 2018-2019*. January 13, 2019, Research Institute for Humanity and Nature, Japan.

大石高典 「民族誌への手がかりとしてのワークショップ――2018 年度の活動を振り返って」、京都大学東南アジア地域研究研究所共同利用・共同研究拠点「東南アジア研究の国際共同研究拠点」平成30年度共同研究「パフォーマンス・エスノグラフィーを応用した地域研究方法論の共同研究」研究会, 2019 年 2 月 11 日（東

京八重洲ホール).

坂井真紀子 「カメルーン西部州における野菜販売網とバイクタクシーー中国製バイクの山間部アクセスへのインパクトを考察するー」, 日本アフリカ学会第 55 回学術大会, 2018 年 5 月 26 日(北海道大学).

Shiino, Wakana "The House girl by choice or the circumstances in Kenya and Uganda". *International Symposium on "African Potentials and the Future of Humanity"*. January 27, 2019, Kyoto University, Japan.

品川大輔 「ウル語(Bantu E622D)の否定標示」, 日本アフリカ学会第 55 回学術大会, 2018 年 5 月 27 日(北海道大学).

品川大輔 「接触スワヒリ語に見られる構造特徴」, AA 研共同利用・共同研究課題「スワヒリ語諸変種にみられる多様性とダイナミズムへのアプローチ」平成 30 年度第 1 回研究会, 2018 年 6 月 3 日(東京外国語大学).

Shinagawa, Daisuke "Typological variation of negative particles in Chaga". *The 20th International Congress of Linguists*. July 2, 2018, the Cape Town International Convention Centre, South Africa.

Shinagawa, Daisuke and Nico Nassenstein "Toward a 'state of the art': Variation in Swahili, current approaches, trends and directions". *7th International Conference on Bantu Languages (Sintu7)*. July 9, 2018, River Club, Africa.

Shinagawa, Daisuke "Notes on the distribution of relative constructions in Sheng: with special reference to *-enye* RC". *7th International Conference on Bantu Languages (Sintu7)*. July 9, 2018, River Club, Africa.

Shinagawa, Daisuke "*-*ag* in Kilimanjaro Bantu: its diachronic path and implications to micro-typology". *9th World Congress of African Language (WOCAL9)*. August 25, 2018, University of Mohammed V, Morocco.

Shinagawa, Daisuke "Linguistic diversity and unity in Swahili contact varieties:a shared element not attested in 'Swahili'". SOAS, University of London and Beijing Foreign Studies University Joint Conference: Diversity of Cultures and Languages in Asia and Africa. November 8, 2018, SOAS, UK.

武内進一 「1990 年代以降の土地法改革はアフリカに何をもたらしたか」, 日本アフリカ学会第 55 回学術大会, 2018 年 5 月 27 日(北海道大学).

武内進一 「コメント」, 国際開発学会第19回春季大会・ラウンドテーブル「開発における政治学の課題について: ガバナンスと開発政治学の焦点 II」, 2018 年 6 月 2 日(聖心女子大学).

武内進一 「コメント」, 日本比較政治学会 2018 年度研究大会・セッション「社会運動の起原と帰結」, 2018 年 6 月 24 日(東北大学).

Takeuchi, Shinichi "Land and Power in Contemporary Africa: What Recent Land Reforms Have Brought About". *'UP-TUFS Seminar'*. September 13, 2018, University of Pretoria, South Africa.

Takeuchi, Shinichi Convener and the Chair at the Roundtable "Resource Management and Political Power: Comparison Between Africa and Asia" and the Panel "Resource Management and Political Power in Rural Africa". *the International Conference "Africa-Asia, A New Axis of Knowledge - Second Edition"*. September 20, 2018, University of Dar es Salaam, Tanzania.

武内進一 「コメント」日本国際政治学会 2018 年度研究大会・分科会セッション B-3 国際政治経済, 2018 年 11 月 2 日(大宮ソニックシティ).

武内進一 「ルワンダにおける土地法改革の意味と結果」国際開発学会第 29 回全国大会, 2018 年 11 月 24 日（筑波大学）.

Takeuchi, Shinichi "Land registration in Rwanda: The motivations and consequences". *the 61st African Studies Association annual meeting*. December1, 2018, Atlanta Marriott Marquis, USA.

武内進一 「アフリカ研究者の紛争研究」, 日本国際政治学会『国際政治』200 号・オルタナティブの模索—問い直す国際政治学・執筆構想報告会, 2019 年 1 月 6 日（東京大学駒場キャンパス）.

e) 一般向け講演

深澤秀夫 「ことばを通して知るマダガスカルの人びとの生活と文化」, 在マダガスカル・邦人会文化講演会, 2018 年 9 月 29 日（在マダガスカル日本大使館）.

深澤秀夫 「明治時代のマダガスカルを画像に読み解く Louis Catat, Voyage a Madagascar (1889-1890), Paris: Hachette, Administration de L'Univers Illustré. 1895 年より」, 在マダガスカル・邦人会文化講演会, 2019 年 2 月 23 日（在マダガスカル日本大使館）.

石川博樹 「エチオピア史の中のオロモとジンマ王国」, 企画展「祈りでつながるイスラーム：エチオピア西部の信仰とその世界」展示解説, 2018 年 6 月 1 日（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所資料展示室）.

石川博樹 「アフリカ史から世界を見る」, 河合塾みらいぶプラス「次代を担う若手研究者によるライトニングトーク：さあ、学問さがしの旅に出よう！」, 2018 年 11 月 27 日（神奈川県立多摩高校）.

苅谷康太 「イスラームの伝播と現状：西アフリカを中心に」, 平成 30 年度めぐろシティカレッジ講座「世界は今！—現場からの報告—」第 2 回, 2018 年 5 月 12 日（東京都立桜修館中等教育学校）.

苅谷康太 「サハラ以南アフリカのアラビア語写本について」, 企画展「祈りでつながるイスラーム：エチオピア西部の信仰とその世界」展示解説, 2018 年 6 月 1 日（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所資料展示室）.

桐越仁美 「西アフリカの歴史的商業ネットワークと現代の流通システム」, 文部科学省ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）女性研究者シーズ発表会, 2018 年 10 月 5 日（中野サンプラザ）.

松波康男 「エチオピア西部におけるムスリム・オロモの宗教実践」, 企画展「祈りでつながるイスラーム：エチオピア西部の信仰とその世界」展示解説, 2018 年 6 月 1 日（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所資料展示室）.

名井良三 「ポルトガル語圏共同体CPLPの国々－旧ポルトガル・アフリカ植民地の過去と現在」, FIAL（イベリア＆ラテンアメリカフォーラム）講演会, 2018 年 11 月 15 日（東京外国語大学本郷サテライト）.

名井良三 「元外務副大臣代理出席＋挨拶」, GGG フォーラム東京：日本の知見で TICAD7 を成功に, 2018 年 12 月 3 日（ルポール麹町）.

大石高典・園田浩司・田中文菜 「ゾウのいる森で遊ぶぞう！（カメルーンのバカ・ピグミー）」, 子ども・親子向けワークショップ『京都で世界を旅しよう！2018 地球たんけんたい⑦』, 2018 年 11 月 18 日（京都大学東南アジア地域研究研究所）.

大石高典 「中部アフリカ・カメルーン：現代における熱帯雨林の文化・生活」, Hult Business School Alumni Meeting event: "Cameroon Night", 2018 年 11 月 15 日（EF ジャパン）.

大石高典「日本⇔アフリカ／違和感から表現へ／日常にもっとカオスを」, African Weeks 2018 トークライブイベント『日常に溢れる多様性～アフリカと日本～』, 2018 年 12 月 14 日（東京外国語大学アゴラカフェ）.

椎野若菜 「先生たちのためのフィールドワーク方法論ーその醍醐味を子どもたちと実践するには」, 渋谷教育学園渋谷教員研修, 2018 年 8 月 30 日（渋谷教育学園渋谷）.

椎野若菜・藤元敬二・にのみやさをり 「アフリカの生/性について、文化人類学と写真表現」, アラカワ・アフリカ×FENICS 公開講座, 2018 年 11 月 17 日（ギャラリーOGU MAG）

椎野若菜 「村落と都市の女性：ケニアの『ハウスガール』事情」, African Weeks 2018×TUFS Cinema「デザート・フラワー」上映会, 2018 年 12 月 7 日（東京外国語大学）.

武内進一 「アフリカの人々の暮らし—食料・農業・紛争・平和について、コンゴ共和国とルワンダを中心に」, 第 41 回すわっ祭, 2018 年 5 月 19 日（立川市柴崎学習館）.

武内進一 「冷戦後アフリカの紛争と平和構築の課題—日本の対アフリカ外交への示唆」, 一般社団法人・平和政策研究所「21 世紀ビジョンの会」, 2018 年 6 月 6 日（アルカディア市ヶ谷）.

武内進一 「パネルディスカッション参加」, ブルンジシンポジウム「コミュニティレジリエンス向上を通じた紛争後の和解を目指して—ブルンジにおける『テラ・ルネッサンス』の援助事例をもとに」, 2018 年 6 月 15 日（聖心女子大学 4 号館ブリット記念ホール）.

武内進一 「AFRI-CONVERSE #3 TICAD7に向けて～アフリカの中長期展望とは～」2018 年 8 月 31 日（国連大学）.

武内進一 「ルワンダの虐殺から考える」, 2018 年 11 月 20 日（学習院女子大学）.

f) 企画・運営・事務局等

石川博樹 第 27 回日本ナイル・エチオピア学会学術大会, 2018 年 4 月 21 日～22 日, 東京外国語大学アゴラ・グローバル、アジア・アフリカ言語文化研究所.

石川博樹 公開シンポジウム「食と農が支えたナイル・エチオピア地域の歴史と文化」, 第 27 回日本ナイル・エチオピア学会学術大会, 2018 年 4 月 21 日, 東京外国語大学アゴラ・グローバル.

石川博樹・苅谷康太・松波康男 企画展示「祈りでつながるイスラーム：エチオピア西部の信仰とその歴史」, 2018 年 4 月 23 日～2018 年 5 月 25 日, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所資料展示室）.

渡邊啓貴・中山裕美 グローバル・ガバナンス学会第 11 回研究大会, 2018 年 5 月 12 日～13 日, 東京外国語大学.

中山裕美 The 21st Japan-EU Conference, October 30, 2018, Egmont – the Royal Institute for International Relations, Brussel. （Egmont – the Royal Institute for International Relations、上智大学との共催事業）

5.2 教育活動

a) 本学内における今年度担当授業

教員名	学部／研究科	授業科目	授業題目	学期
ベンジャミン・アモア	国際社会学部	経済学 B	Development Finance	冬
出町一恵	世界教養プログラム	地域言語 A(英語II-5)	世界経済グローバル化の歴史	春
出町一恵	世界教養プログラム	地域言語 A(英語II-5)	経済思想を読む	秋
出町一恵	国際社会学部	国際経済概論 B	国際金融論	秋
出町一恵	国際社会学部	経済学 B	世界各国・地域の最新経済事情*1	秋
出町一恵	国際社会学部	国際経済学 A	国際経済学I	春
出町一恵	国際社会学部	国際経済学 B	国際経済学II	秋
出町一恵	国際社会学部	国際経済学 A（専門演習)	国際経済論（専門演習）I	春
出町一恵	国際社会学部	国際経済学 B（専門演習)	国際経済論（専門演習）II	秋
出町一恵	国際社会学部	卒業論文演習 A	国際経済論（卒論演習）I	春
出町一恵	国際社会学部	卒業論文演習 B	国際経済論（卒論演習）II	秋
出町一恵	総合国際学研究科	国際関係研究3	国際経済研究I	春
出町一恵	総合国際学研究科	国際関係研究4	国際経済研究II	秋
深澤秀夫	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールドサイエンス実践研究1	フィールドワークにおける会話分析およびエスノメソドロジーの実践	春
深澤秀夫	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド人類学1／文化人類学	David Graeber の著作を通して考える価値論	春
深澤秀夫	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド人類学2／文化人類学	婚姻から見た構造と行為　あるいはブルデュー入門と再考	秋
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地域研究1／ｱﾌﾘｶ歴史文化論	ｱﾌﾘｶ歴史文化論	春
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地域研究2／ｱﾌﾘｶ歴史文化論	ｱﾌﾘｶ歴史文化論	秋
苅谷康太	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地域研究1	西アフリカ・アラビア語文献講読	春
苅谷康太	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地域研究 2	西アフリカ・アラビア語文献講読	秋
桐越仁美、松波康男、武内進一	国際社会学部	ｱﾌﾘｶ地域研究 A	現代アフリカの重要課題*2	春
箕浦信勝	世界教養プログラム	基礎演習	論文作成法とプレゼンテーション	秋
箕浦信勝	言語文化学部	言語研究入門 A	言語の研究入門	春
箕浦信勝	言語文化学部	言語研究入門 B	言語の研究入門	秋
箕浦信勝	言語文化学部／外国語学部	言語学概論 A／言語学基礎	言語学概論	春
箕浦信勝	言語文化学部／外国語学部	言語学概論 B／言語学基礎	言語学概論	秋
箕浦信勝	言語文化学部／外国語学部	言語学 A(専門演習)／言語学(演習)	言語記述のための類型論	春
箕浦信勝	言語文化学部／外国語学部	言語学 B(専門演習)／言語学(演習)	言語記述のための類型論	秋
箕浦信勝	言語文化学部／外国語学部	言語学特殊研究 A／言語学特殊研究(講義)	「語」とは何か・再考	春
箕浦信勝	言語文化学部／外国語学部	言語学特殊研究 B／言語学特殊研究(講義)	「語」とは何か？再考	秋
箕浦信勝	言語文化学部／外国語学部	卒業論文演習 A／　卒業論文演習	言語学卒論演習	春
箕浦信勝	言語文化学部／外国語学部	卒業論文演習 B／言語学卒論演習	言語学卒論演習	秋
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学研究1	個別言語の文法記述研究	春
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学研究2	個別言語の文法記述研究	秋
箕浦信勝	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ1	言語学修論演習	春
箕浦信勝	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ2	言語学修論演習	秋
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学1／言語基礎論	言語記述研究	春
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学2／　言語基礎論	言語記述研究	秋
中川裕	世界教養プログラム	基礎演習	論文作成法とプレゼンテーション	秋
中川裕	言語文化学部	音声学概論 A	音韻論入門	春
中川裕	言語文化学部	音声学概論 B	音韻論入門	秋
中川裕	言語文化学部／外国語学部	音声学 A(専門演習)／言語記述理論(演習)	音声資料分析実習	春
中川裕	言語文化学部／外国語学部	音声学 B(専門演習)／　言語記述理論(演習)	音声資料分析実習	秋
中川裕	言語文化学部	卒業論文演習 A	音声学・音韻論卒論演習	春
中川裕	言語文化学部	卒業論文演習 B	音声学・音韻論卒論演習	秋
中川裕	総合国際学研究科	音声学研究1	音韻論研究入門	春
中川裕	総合国際学研究科	音声学研究2	音声学・音韻論セミナー	秋
中川裕	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ1	修士論文：音声学・音韻論	春

中川裕	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ2	修士論文:音声学・音韻論	秋
中川裕	総合国際学研究科	音声学1／言語基礎論	音声学と音韻論	春
中川裕	総合国際学研究科	音声学2／言語基礎論	音声学・音韻論セミナー	秋
中山裕美	国際社会学部／外国語学部	国際関係論入門 B／国際関係論基礎	国際政治のなかの地域	秋
中山裕美	国際社会学部／外国語学部	国際政治概論 A／国際関係論基礎	国際関係概論 A	春
中山裕美	国際社会学部／外国語学部	国際関係論 A／国際関係論(講義)	国際関係の中の地域主義	春
中山裕美	国際社会学部／外国語学部	国際関係論 B／ 国際関係論(講義)	国際人口移動と国際協調	秋
中山裕美	国際社会学部／外国語学部	国際関係論 A(専門演習)／ 国際関係論(演習)	国際協調	春
中山裕美	国際社会学部／外国語学部	国際関係論 B(専門演習)／ 国際関係論(演習)	国際協調	秋
中山裕美	国際社会学部／外国語学部	卒業論文演習 A／ 卒業論文演習	国際協調	春
中山裕美	国際社会学部／外国語学部	卒業論文演習 B／卒業論文演習	国際協調	秋
中山裕美	総合国際学研究科	国際関係研究1	国際協調	春
中山裕美	総合国際学研究科	国際関係研究2	国際協調	秋
大石高典	世界教養プログラム	地域言語 A(英語II-1)	アフリカ地域研究のための科学英語 1	春
大石高典	世界教養プログラム	地域言語 A(英語II-6)	アフリカ地域研究のための科学英語 II	秋
大石高典	世界教養プログラム	地域基礎 2A(ｱﾌﾘｶ 1)	アフリカ地域研究入門I	春
大石高典	国際社会学部	ｱﾌﾘｶ地域研究 A	アフリカ地域研究への生態学的アプローチ I	春
大石高典	国際社会学部	ｱﾌﾘｶ地域研究 B	アフリカ地域研究への生態学的アプローチ II	秋
大石高典	国際社会学部	ｱﾌﾘｶ地域研究 A(専門演習)	フィールド人類学・地域研究	春
大石高典	国際社会学部	ｱﾌﾘｶ地域研究 B(専門演習)	フィールド人類学・地域研究	秋
大石高典	国際社会学部	卒業論文演習 A	卒論ゼミ Part 1	春
大石高典	国際社会学部	卒業論文演習 A	卒論ゼミ Part 2	秋
大石高典	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 17	環境人類学の理論と方法I	春
大石高典	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18	生態人類学の理論と方法II	秋
ニサ・パレケル	世界教養プログラム	地域言語 A(英語II-7)	African Spirituality	秋
ニサ・パレケル	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18	African Genocides in Historical Perspective	秋
坂井真紀子	世界教養プログラム	地域言語 A(英語I)／ 地域言語 A(英語I-9)	African Studies through English II[*3]	秋
坂井真紀子	世界教養プログラム	地域言語 B(ｱﾌﾘｶ関連語 6)／ 教養外国語(ﾌﾗﾝｽ語 B3)	フランス語で見るアフリカ II	春
坂井真紀子	世界教養プログラム	地域言語 B(ｱﾌﾘｶ関連語 7)／教養外国語(ﾌﾗﾝｽ語 B2)	フランス語で見るアフリカ II	秋
坂井真紀子	世界教養プログラム	地域基礎 2A(ｱﾌﾘｶ 2)	アフリカの歴史(2)	秋
坂井真紀子	世界教養プログラム	地域基礎 2B(ｱﾌﾘｶ 1)	アフリカの歴史(3)	春
坂井真紀子	国際社会学部／外国語学部	ｱﾌﾘｶ地域研究 A／ ｱﾌﾘｶ地域研究(講義)	アフリカと開発(A)	春
坂井真紀子	国際社会学部／外国語学部	ｱﾌﾘｶ地域研究 B／ｱﾌﾘｶ地域研究(講義)	アフリカと開発(B)	秋
坂井真紀子	国際社会学部／外国語学部	ｱﾌﾘｶ地域研究 A(専門演習)／ｱﾌﾘｶ地域研究(演習)	アフリカ地域ゼミ	春
坂井真紀子	国際社会学部／外国語学部	ｱﾌﾘｶ地域研究 B(専門演習)／ｱﾌﾘｶ地域研究(演習)	アフリカ地域ゼミ	秋
坂井真紀子	国際社会学部／外国語学部	卒業論文演習 A／卒業論文演習	卒業論文演習 I	春
坂井真紀子	国際社会学部／外国語学部	卒業論文演習 B／卒業論文演習	卒業論文演習 II	秋
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 17／アジア・アフリカ政治経済論	仏語圏アフリカ地域研究 I	春
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18／アジア・アフリカ政治経済論	仏語圏アフリカ地域研究 II	秋
坂井真紀子	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ1	アフリカ地域研究ゼミ(1)	春
坂井真紀子	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ2	アフリカ地域研究ゼミ(1)	秋
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究1／ｱﾌﾘｶ政治経済論	アフリカ地域研究～農村の暮らしと開発～	春
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究2／ｱﾌﾘｶ政治経済論	アフリカ地域研究～農村の暮らしと開発～	秋
マブート・シャンガセ	国際社会学部	ｱﾌﾘｶ地域研究 B	Africa's Development through Macro-Level Determinants	秋

マブート・シャンガセ	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究18	African Public Policy	秋
椎野若菜	国際社会学部／外国語学部	ｱﾌﾘｶ地域研究 B／ｱﾌﾘｶ地域研究(講義)	アフリカ人類学:その社会組織と文化を知る	秋
椎野若菜	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド人類学1／アフリカ言語文化論	アフリカ女性の処遇について(1)―土地の権利等に着目して	秋
椎野若菜	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド人類学2／アフリカ言語文化論	アフリカ女性の処遇について(2)―ウガンダの事例	秋
品川大輔	世界教養プログラム	地域言語 C(ｱﾌﾘｶ諸語 1)	スワヒリ語中級 1	春
品川大輔	世界教養プログラム	地域言語 C(ｱﾌﾘｶ諸語 2)	スワヒリ語中級 2	秋
品川大輔	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールドサイエンス言語研究2	形態統語論基礎演習	秋
品川大輔	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド言語学1	バントゥ諸語系統内類型論の射程	春
品川大輔	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド言語学2	バントゥ諸語系統内類型論の射程	秋
武内進一	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究17	Contemporary African Politics	春
武内進一	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究18	Contemporary AfricanPpolitics B	秋
武内進一	総合国際学研究科	国際関係研究1	IDEAS Lectures on International Development (1)*4	秋
武内進一	総合国際学研究科	国際関係研究 2	IDEAS Lectures on International Development (2) *4	秋
武内進一	総合国際学研究科	国際関係研究 3	IDEAS Lectures on International Development (3) *4	秋
武内進一	総合国際学研究科	国際関係研究 4	IDEAS Lectures on International Development (4) *4	秋

＊1…JETRO 海外調査部が担当する日本貿易振興機構＜JETRO＞連携講座

＊2…桐越仁美、松波康男、武内進一によるリレー講義

＊3…南部アフリカ開発共同体(SADC)12 か国の在京大使によるリレー講義

＊4…日本貿易振興機構アジア経済研究所(千葉市)で開講されるイデアスの授業(2.5 参照)

b) 本学以外における非常勤講師活動

教員名	機関名	学部等	科目名	学期
石川博樹	青山学院大学	文学部	東洋史特講	春
石川博樹	青山学院大学	文学部	東洋史特講	秋
石川博樹	慶應義塾大学	商学部	歴史 II　現代社会のなかのアフリカ史	秋
石川博樹	放送大学	東京渋谷学習センター	面接授業　近現代世界のなかのアフリカ(2)	春
石川博樹	放送大学	大学院	ラジオ講座　アフリカ世界の歴史と文化	春
苅谷康太	放送大学		面接授業　近現代世界のなかのアフリカ(2)	H30.6.23、24
桐越仁美	津田塾大学	学芸学部国際関係学科	アフリカ研究(1)	第 1 ターム
桐越仁美	関東学院大学	経済・経営学部	地理学 A	春
桐越仁美	慶応義塾大学	商学部	地域文化論II(アフリカ)*1	秋
松波康男	南山大学		現代の文化人類学	夏季集中
松波康男	駒澤大学	法学部	アフリカ政治論	後期
松波康男	慶應義塾大学	商学部	地域文化論II(アフリカ)*1	秋
松波康男	国際基督教大学	教養学部	言語と歴史*1	第 3 学期
品川大輔	明治学院大学	言語文化研究所	スワヒリ語	後期
武内進一	政策研究大学院大学		博士論文指導	通年
武内進一	アジア経済研究所	イデアス(IDEAS)	ゼミ指導	通年

＊1…リレー講義。担当は各 3 コマずつ

5.3 対外活動・社会貢献

各センター員が外部機関より委託され行なっている業務は以下のとおりである。

教員名	機関名	役職名	期間	内容/備考
出町一恵	国際協力機構	調査団員	2018.1.9～2020.3.31	ラオス国における財政・マクロ経済分析に係る調査（Working Group3)
深澤秀夫	マダガスカル研究懇談会	世話役代表	2017.4.1～2019.3.31	マダガスカル研究懇談会の会全体の統括業務
石川博樹	京都大学東南アジア地域研究研究所 CIRAS センター	共同研究員	2018.6.18～2019.3.31	共同研究プロジェクト「ディスコミュニケーションに着目した地域研究の新展開」（代表山本博之）に参加し、共同研究を行なう
石川博樹	日本アフリカ学会関東支部	運営幹事	2010.4.1～	学会関東地区での企画管理や研究会運営等を行なう
石川博樹	日本ナイル・エチオピア学会	運営委員	2007.4.1～	
石川博樹	日本ナイル・エチオピア学会	評議員	2010.4.1～	
石川博樹	日本ナイル・エチオピア学会	学会誌編集委員	2010.4.1～	
苅谷康太	国立民族学博物館	共同研究員	2018.4.1～2019.3.31	国立民族学博物館共同研究会への参加
桐越仁美	国立民族学博物館	共同研究員	2018.10.1～2019.3.31	研究課題「統治フロンティア空間をめぐる人類学――国家・資本・住民の関係を考察する」の研究会へ参加する
桐越仁美	参議院	客員研究員（ODA 派遣業務アドバイザー）	2018.6.18～2019.3.31	参議院 ODA 派遣議員団が ODA 給与相手国を訪問・視察するために行なう準備業務に対し、業務補助および助言をする
松波康男	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	共同研究員	2018.12.14～2019.3.31	AA 研共同利用・共同研究課題「エチオピア・ジンマ王国伝来イスラーム祈祷集研究」に係る共同研究を行なう
中山裕美	日本国際政治学会	将来構想タスクフォース委員	2018.9～	若手研究者減少など、学会の将来について多角的に検討する

大石高典	国立民族学博物館	外来研究員／共同研究員	2018.4.1～2019.3.31	共同研究プロジェクトの代表者として研究会の運営を行なう
大石高典	the African Forest policies and politics conference (AFORPOLIS), IUFRO	Scientific Committee member	2018.9.1～2019.3.31	アフリカの林業・森林政策に関わる国際会議の科学委員を務める
大石高典	生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム（IPBES）	評価報告書第一章主執筆者	2019.1.1～	生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学－政策プラットフォーム(IPBES)野生種の持続的利用に関する評価報告書第一章の主執筆者を務める
大石高典	Cahiers d'Études Africaines Autochtones	Membres du comité scientifique internatinal	2019.1.1～	新規に創刊されたアフリカの先住民研究に関する国際ジャーナルの国際科学委員を務める
大石高典	帝京科学大学附属フィールドミュージアム	外部評価委員会委員	2018.7.1～2019.3.31	新設された博物館の運営に係る外部評価を行なう
大石高典	日本アフリカ学会関東支部	運営幹事	2018.4.1～2019.3.31	学会関東地区での企画管理や研究会運営等を行なう
大石高典	日本熱帯生態学会	庶務幹事	2018.4.1～2019.3.31	学会連携幹事として日本アフリカ学会との連携を担当する
武内進一	国立民族学博物館	共同研究員	2018.10.1～2019.3.31	研究課題「統治フロンティア空間をめぐる人類学――国家・資本・住民の関係を考察する」の研究会へ参加する
武内進一	上智大学	外部評価委員	2018.4.1～2019.3.31	「『人間の安全保障』実現に取り組む国際的研究拠点大学としてのブランド形成」事業の外部評価委員を務める
武内進一	地域研究学会連絡協議会	事務局長	2017.12～2019.12	協議会の運営一般
武内進一	地域研究コンソーシアム	地域研究コンソーシアム賞審査専門委員	2018.4.1～2019.3.31	学会賞選考作業
武内進一	トヨタ財団	トヨタ財団国際助成プ	2018.4.1～2019.3.31	国際助成プログラムの評価報告書執筆

		ログラム評価委員長		
武内進一	日本アフリカ学会	理事	2017.4.1～2020.3.31	渉外担当
武内進一	日本学術会議	連携委員（地域研究基盤整備分科会副委員長）	第 24 期（2017.10～2020.10）	研究集会企画および報告書取りまとめ
武内進一	日本国際政治学会	制度整備・自己点検タスクフォース委員	2016 期～2018 期	規程など制度整備と日本国際政治学会におけるアフリカ研究の回顧と展望
武内進一	日本比較政治学会	研究奨励賞選考委員	2017.4.1～	学会賞選考作業

このほか、近年はマスメディアでアフリカ各国が取り上げられることも増えたため、テレビ制作会社や新聞社などマスメディアからの取材、問い合わせも今年度に入って以降、急増している。アフリカ各地域の現地語翻訳業務への協力や裏取り調査への協力、基礎情報の提供など、可能なかぎりで対応している。

5.4. 外部資金の獲得

a) 代表者

代表者名	資金名	資金提供元	期間
出町一恵	科学研究費　若手研究「天然資源依存経済におけるマクロ経済と産業の推移に関する分析」	文部科学省・日本学術振興会	2018.4.1～2021.3.31
深澤秀夫	科学研究費　基盤研究（C）「マダガスカルにおける損失の回復をめぐる観念の歴史的過程と共時的生成の統合的研究」	文部科学省・日本学術振興会	2018.4.1～2020.3.31
苅谷康太	科学研究費　若手研究（B）「18–19 世紀の西アフリカ・ハウサランドにおけるムスリムと非ムスリムの境界」	文部科学省・日本学術振興会	2015.4.1～2019.3.31
松波康男	科学研究費　若手研究「苦悩に対処する社会装置としての儀礼に関する人類学的研究：エチオピアの事例から」	文部科学省・日本学術振興会	2018.4.1～2022.3.31

中川裕	科学研究費　基盤研究(A)「稀少特徴と言語地域の音韻類型論:コイサン音韻論の貢献」	文部科学省・日本学術振興会	2016.4.1～2021.3.31
中川裕	科学研究費　挑戦的研究(萌芽)「音韻獲得の言語相対論の新展開:クリック子音獲得の事例研究」	文部科学省・日本学術振興会	2018.6.29～2021.3.31
中川裕	科学研究費　国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))「カラハリ・コエにおける言語と音楽の相互関係:クリックとポリリズム」	文部科学省・日本学術振興会	2018.10.9～2023.3.31
坂井真紀子	科学研究費　基盤研究(C)「カメルーンにおける定期市ネットワークの社会学的研究」	文部科学省・日本学術振興会	2018.4.1～2021.3.31
品川大輔	科学研究費　基盤研究(C)「言語ドキュメンテーションに基づくバントゥ諸語のミクロな類型的多様性の探究」	文部科学省・日本学術振興会	2016.4.1～2019.3.31
品川大輔	研究拠点形成事業(B. アジア. アフリカ学術基盤形成型)「アフリカにおける言語多様性とダイナミズムに迫るアフリカ諸語研究ネットワークの構築」	文部科学省・日本学術振興会	2018.4.1～2021.3.31
武内進一	科学研究費　基盤研究(B)「アフリカ農村部における資源管理と政治権力」 ＊学内分担者は桐越仁美、松波康男、大石高典、坂井真紀子	文部科学省・日本学術振興会	2018.4.1～2021.3.31
武内進一	科学研究費　基盤研究(B)「アフリカにおける紛争の性格変化の基層—暴力噴出メカニズムの解明に向けて」	文部科学省・日本学術振興会	2016.7.19～2020.3.31

b) 分担者

分担者名	資金名	資金提供元	代表者	期間
石川博樹	科学研究費　基盤研究(B)「アフリカ食文化研究の新展開:食料主権論のために」	文部科学省・日本学術振興会	藤本武(富山大学)	2018.4.1～2021.3.31
桐越仁美	科学研究費　基盤研究(B)「西アフリカの人口増加と飢餓、紛争の負の連	文部科学省・日本学術振興会	大山修一(京都大	2017.4.1～2021.3.32

	鎖とシミュレーションによる解決法の検討」		学)	
中山裕美	科学研究費 新学術領域研究(研究領域提案型)「国家と制度:固定化された関係性」	文部科学省・日本学術振興会	松永泰行(東京外国語大学)	2016.6.30～2021.3.31
中山裕美	科学研究費 基盤研究(A)「国際制度の衰微と再生の政治経済分析」	文部科学省・日本学術振興会	鈴木基史(京都大学)	2018.4.1～2022.3.31
大石高典	科学研究費 新学術領域研究(研究領域提案型)「トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築:多文化をつなぐ顔と身体表現(顔・身体学)」・計画研究 A01-P02「顔と身体表現の多文化比較フィールド実験研究」	文部科学省・日本学術振興会	高橋康介(中京大学)	2017.6.30～2022.3.31
大石高典	科学研究費 基盤研究(A)「アフリカ漁民文化の比較研究—水域環境保全レジームの構築に向けて」	文部科学省・日本学術振興会	今井一郎(関西学院大学)	2015.4.1～2019.3.31
大石高典	科学研究費 基盤研究(A)「コンゴ盆地における水陸ネットワークと社会生態環境の再編」	文部科学省・日本学術振興会	木村大治(京都大学)	2016.4.1～2020.3.31
大石高典	科学研究費 基盤研究(B)「焼畑の在来知を活かした日本の食・森・地域の再生:地域特性に応じた生業モデルの構築」	文部科学省・日本学術振興会	鈴木玲治(京都学園大学)	2016.4.1～2021.3.31
大石高典	科学研究費 基盤研究(C)「持続可能性を基軸とした異生態系比較による『地域の知』モジュール化と公教育への応用」	文部科学省・日本学術振興会	飯塚宣子(京都大学)	2017.4.1～2020.3.31
大石高典	研究助成「『食産業の海外展開等によるフードバリューチェーン』政策の『途上国』への環境・社会影響」	高木仁三郎市民科学基金	舩田クラーセンさやか(グローバル・フードシステムを考える市民グループ)	2018.4.1～2019.3.31
坂井真紀子	科学研究費 基盤研究(B)「アフリカ農民の生計における小規模な現金獲得活動と『在来の技術革新史』への視角」	文部科学省・日本学術振興会	杉山祐子(弘前大学)	2018.4.1～2022.3.31
椎野若菜	科学研究費 挑戦的萌芽研究「ケニア都市部における人々の移動史と居	文部科学省・日本学術振興会	野口靖(東京工芸大	2016.4.1～2019.3.31

	住環境に関する民族誌デジタルアーカイブ研究」		学)	
品川大輔、武内進一	科学研究費　基盤研究(S)「『アフリカ潜在力』と現代世界の困難の克服:人類の未来を展望する総合的地域研究」	文部科学省・日本学術振興会	松田素二(京都大学)	2016.5.31～2021.3.31
武内進一	科学研究費　基盤研究(A)「持続的な平和と開発のためのガバナンス:ネットワーク科学とデータ科学を用いた研究」	文部科学省・日本学術振興会	阪本拓人(東京大学)	2018.4.1～2022.3.31
武内進一	科学研究費　基盤研究(A)「民主主義体制における少数派排除のグローバル化―アジア・アフリカの比較研究」	文部科学省・日本学術振興会	中溝和弥(京都大学)	2018.4.1～2022.3.31